

■ 学会賞受賞

第13回心臓核医学会学会賞受賞にあたって

磯部 智

名古屋大学医学部・循環器内科、磯部内科クリニック・院長

第22回、日本心臓核医学会総会学術集会在金沢で開催され、幸運にも私は第13回学会賞を受賞することとなった。同学会が開催された金沢には、1996年に日本循環器学会・東海北陸合同地方会以来15年ぶりに足を運ぶこととなった。梅雨時ではあったものの、猛暑で名高い私の居住地名古屋とは違い蒸し暑さは感じられなかった。

私自身、この賞を受賞することは大変光栄なことと感じ、東海地区で孤軍奮闘して頑張ってきた甲斐があったと喜んだ。一方では、私のような未熟者が、正直いただいてよい賞なのかと僭越な気持ちにもなった。私の後輩にあたる名古屋大学(現在津島市民病院)循環器内科の大島覚先生が2006年に、また同じ後輩の海野一雅先生(現在米国ハーバード大学留学中)が2009年に、それぞれ同学会の若手研究者奨励賞(YIA)の最優秀賞を受賞している。この賞の応募するに至った経緯は、優秀な彼ら2人の後輩の強い後押しと協力があったからこそであった。

学会賞受賞講演の発表内容は、心筋症患者に心臓核医学検査を施行し、コンダクタンスカテーテルより求められた心筋特性のデータ、心筋生検より得られた組織学的所見と対比することで、心筋症の病態解明、治療指針の決定、予後予測における心臓核医学検査の有用性につき検討したものであった。私が研究を始めた当初は、心筋症患者に対し、運動負荷²⁰¹Tlシンチグラフィや¹²³I-MIBGシンチグラフィを用いて、カ

テーテルデータから得られた左室収縮・弛緩予備能との関連を検討し、血流あるいは交感神経機能異常と、左室収縮・拡張機能特性の異常とが関連することを発見した。最近では安静^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィの洗い出し所見と、左室収縮・弛緩予備能、さらには電子顕微鏡を用いたミトコンドリアの形態、RT-PCR法によるCa²⁺-handling関連mRNAタンパクおよびミトコンドリア電子伝達系関連mRNAタンパク発現との関連を調べ、^{99m}Tc-MIBIの洗い出し亢進と左室機能特性の異常、ミトコンドリアの形態異常、および各々のmRNAタンパク発現の低下とが関連することを発見した。我々の心臓核医学検査を用いた研究結果より、心筋シンチグラフィの所見は心筋症の心筋特性や病理所見と関連し、心筋症の細胞機能を反映することが示された。心臓核医学検査は、心筋症のさらなる病態解明に貢献し、治療指針決定および予後評価に有用な検査であることを再認識した。非常に責任重大な発表であり緊張したとともに、発表時間が約20分と限られた時間であったため、数多くのデータを的確にまとめわかりやすく発表することには大変苦労した。近い将来、時間的余裕を持って発表する機会があれば幸甚と思います。

最後に、座長の労を勤められました大会長の中嶋憲一先生、実行委員長の松尾信郎先生に厚く御礼、感謝いたします。

写真1 大会長の中嶋憲一先生よりご紹介



写真2 技術部門賞の国立循環器病研究センターの西村圭弘先生と

